

ぽっぽ

ぽっぽとは我が家で永く家族の一員（？）として飼われていた犬の名前である、

洋一が東京の勤めから仙台にUターンして来たとき生まれて間もない犬を何処からか貰って来た。本当に可愛い子犬だった。

我が家に来るときから、都合で飼えなくなるまで、思い出を多く作ってくれた犬だった。

洋一が東京の京王サービスからUターンして来る時高速道路のサービスエリアから電話を掛けて寄越した、

『お客さんを連れて来たから』

かあちゃんはビックリ、ご馳走を作る為急いで近くにスーパーマーケットに行き、いろいろ買いこみ美味しいご馳走を作り待っていた。

洋一が到着して又びっくり。ワンちゃんだとは、親子三人美味しいご馳走にありついた。二郎は大学で居なかったと。

本当に可愛い柴犬の子犬で大喜び。早速段ボ―

ルにタオルを敷き玄関の隅で飼う事にした、名前は、「ぼつぼ」と洋一が命名した。

尻尾は背より高く輪になっていて犬相もよく、血統書付きと言っても良い位の犬だった。東京のとくチャンの知り合いで生まれた子犬のうちで、一番可愛いのをとくチャンが選んだそうだ。

朝晩の散歩は殆ど私の役目。首輪に美しい紐をつけヨチヨチ歩かせ、陸上競技場、宮城球場を一周するのが毎日の日課だった。

日中は店の前か玄関前に繋いでおいた。通行中の子供達は寄ってたかって頭を撫でたり抱っこしたり大騒ぎ。とうとう散歩に貸して下さいと云う始末、中学生二、三人の女の子が鞆をほうり出し連れ出して、二、三十分グラランドの方を散歩して帰ってくる。どうも有り難とう御座いましたと言って帰って行く。週に一回位連れ出された。

そんな事があってから一ヶ月位過ぎた或る日からポツポは行方不明になってしまった。近所の人々に聞いて回った、五〇〇m位離れたパーマ屋さんに

居るのがポツポではないか等の情報を入手し、極秘に調べたが間違いなかった。

清水沼町内のある家に居るのがポツポではないかとお知えてくれた人が居たので、何かの用事あるふりして訪問したら、玄関の脇にポツポを入れて置いた大きさ位の段ボールがあり、タオルが敷いてあった。やっぱりポツポだった。その家の子供と近所の子供二、三人して連れて来て飼っていたが、親に反対され、子供達は相談して近くの材木屋の片隅で飼っていた様だ。学校に行く時と帰ってから家から餌を持って来て与え、散歩にも連れて楽しんでいたので誰かが見ていたのだろう。

誘拐されてから約半月後、ある人がポツポを連れて来てくれた。その人が親と子供達を説得して、親と子供の名前を知らせない約束で連れて来てくれた。小学校低学年の男の子だった。

どれだけ可愛い子犬だったかの証明である。帰ってから餌の嗜好が変わり苦労した